



3匹のホタル

ホタルの季節は雨季の始まる4月下旬から、5月にかけてがチェンマイの風物詩。あろうことか！年末28日夜8時頃ベランダに出てホタル族(喫煙)を決め込んで、本誌新年号の最終稿を考察している時、目の前をほんのり青白い光が横切った。幻覚かと思いつつ、目を凝らして、その光を追って見ると、何と1cmにも満たないホタルだった…。

もう1匹、更にはもう1匹、3匹のホタルが飛び交っていた。何でこの時期に？と思いつつも暫く見とれていた。最盛期のホタルの光は、強いオレンジ色だが、弱々しく青白い光を放っていた。たまたまの偶然で現れたのか、吉報なのか凶報なのか今は分からないが、2010年代最後の灯火を見た感じだった。今年が2020年。10年刻みに年代が形成されている事から、2000年代2010年代に引き続いて、20年代に入ったという事を意識している人がどれ程居るだろうか？



世紀までもが変わった2000年代、2010年代は、失われた20年と云われて久しい。誰が失わせて、誰が失ったのか？『痴愚なリーダーが失わせ、魯鈍な国民が失った』と解釈すれば分かり易いかも知れない。通常国会が始まった途端に痴話話に花を咲かせている事からも、痴愚なリーダー達に国政が蹂躪されている事が理解されよう。『アベコベノミックス』の実態が綻びを見せ始めているのに、国民の殆どが今年も魯鈍を決め込んでいたのでは日本は救われない。



年明け早々から中東ではキナ臭い事態が発生した。スワ第三次世界大戦勃発か！と思いきや、喧嘩上手なトランプ氏は、後出しじゃんけんのプーチン、集金Payこと習近平のイラン支援表明を聞いて(確認して)から、イラン側のやらせ報復ミサイルも見定め、即時停戦。ロシア・中共は、早まった支援表明を悔いているだろう。クリスマスプレゼントも贈らず、年末迄のミサイルも撃てず、年頭の所感も発表できなかった唐様の三代目は、ビビリまくって病床に伏しているのか？姿を消している。兵糧攻めは終わる事もなく、干上がるまで続くから、コンコン兵糧を送っている国も、一蓮托生の目に遭うのも今年だろう。4月15日の韓国総選挙で与党が敗退したら、南北共倒れとなり、大量の難民が予想される。(野党が勝っても反日は変わらない)人手不足に苦慮している日本政府は、その受け皿の『高度人材移民法』を用意していても、ミソクソ混合の難民を捌ける程の技量はないと云うのが原状ではないか。

1月11日の台湾総統選挙の結果は周知の通りで、日・米・台湾の連携が継続的且つより強固になるだろう事は喜ばしい反面、中国との関係が「完全に正常な軌道に戻った」とか習近平を「国賓として招待したい」などと、とち狂った発言を繰り返している、国賊に成り下がった首相の人相の変化にお気づきでしょうか？奇跡的とも云われた復活を果たし、第二次安倍政権を立ち上げた当初の顔と、今の顔・表情を比べたら一目瞭然です。初心を忘れ、米国の恫喝に恐れおののきながら、毒された親中派に取り囲まれ、パフォーマンスだけで、その日暮を過ごしているピエロとしか写りません。



60年安保闘争デモ

敗戦後、隷属国に貶められたのは結果論で、致し方ないものとしても、60年安保改定闘争で首相官邸に残った岸信介・佐藤栄作兄弟は、死を覚悟して片務条約の安保条約を対等条約に引き上げた。その孫に当たる現首相が、この体たらくでは草場の陰で嘆かれているだろう。

歴史は後から書き記されるものではあるが、歴代最長在任期間を果たした首相は取りも直さず『唐様の三代目だった』では洒落にもならない。隣国の三代目と、いい勝負とも云える。憂国の民が必死に「習近平国賓来日反対」の声を上げ、自民党内外からも同様の声が上がって来つつあるが、どうなるものか？ケ・セラ・セラだ。

どちらの都合の如何を問わず、結果的に『国賓来日』が取り止めになったとしても、招請した事実は動かないという事が、現首相の汚点として歴史に刻まれてしまう。

時期外れのホタルの出現は、今年が終わる時点で「そうだったのか！なるほど！」と答えが出るだろう。結果が出てから、ああだ！こうだ！と解説してもしようがないから、懸命な読者諸兄におかれましては、これから起きる様々な事象に対処して頂き、健康で元気な毎日を過ごして頂きたいと心底祈念いたします。今年のキーワードは、『時期外れ』の『ホタル』の『出現』です。

評論家の今年の展望と、現状の政局の解説動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=K63ingAu6QM>

2020を展望する

<https://www.youtube.com/watch?v=g5H-GA949Ps>

首相と官房長官のすきま風



すべからく バランス感覚

本誌で時折取り上げているバランス(平衡・均衡)について、もう少し深掘りして見ようというのが本章のテーマです。「アンバランスな人間が、今更、何を語るのか？」チャンチャラ可笑しくても、疑心暗鬼でも、『新しいバランス感覚』を身につけましょう。「何？バランス感覚に、新しいも古いもないだろう！」という方には、必読の章でもあります。

『バランスをはかる』という時のはかると云う漢字は？同音異字の『計る』『図る』『測る』『量る』『諮る』『謀る』などの内のどれでしょう？体温を測るには、体温計を使います。『測る』と『計る』の2つのはかりが出て来ます。(イヤー！日本語は難しいですね。正しく使われていますか？)

正解は『図る』です。物理的な重さを量る秤も、基本的にはバランスを図る道具であるとも云えるでしょう。右図の片天秤棒秤は、昔懐かしい『クズ屋さん』必携の秤ですね。左のかぎ(鉤)に、束ねた古新聞や鉄くずなどを吊るして、竿に通した分銅を移動させてバランスをとり、釣合った所のメモリが重さという、実にシンプル且つ哲学的な道具でした。

鉤の代わりに皿を取り付けたものが下図ですが、原理は同じで、竿に通した分銅が右に行く程重く、左に寄る程軽いというものです。バランスが取れるまで、竿が右肩上がりになったり、右肩下がりになったりする様子を見て、何をどう思い、何を期待し、どんな哲学をしていたでしょうか？気づきや発見・発想などは、こんなシンプルな道具にヒントがあったりします。



左図上も懐かしい天秤秤ですね。今では、何でもかんでもパッケージ包装されていて、『計りこみ』という『おまけ』や、店員とのやりとり(コミュニケーション)の妙も、殆どなくなってしまいました。この秤が大活躍していた時代、味噌問屋の店頭はこの秤が何台か置いてあり、店員の掛け声のもと、『量り売り』で活況を呈していた事を懐かしく思い出します。

左図下の両天秤も、今は全く使われていないでしょうが、バランスのバロメーターとして表現されています。国力・軍事力・経済力・知的能力・等々常に格差があり、バラツキがあって、バランスが取れていないのが現実だと認識すれば、自分自身もアンバランスな人間であることに思い至らざるを得ない。

健康面でのバランスを考えてみると、体力・気力ともに充実していて元気な時には体調のバランスも取れている。身体の調整機能が働いているからだ。

快眠・快食・快便が健康のバロメーターとも云われている。これらが崩れ始めると、やがては養老施設や介護施設のお世話にならざるを得なくなって来る。

経営コンサルタントとして有名な大前研一氏のレポート(2020/01/04)をご覧ください。

私は10年ほど前に、チェンマイにある養老施設を見学に行ったことがあります。認知症のスイス人、ドイツ人、スウェーデン人などを介護していたのは地元のタイ人女性でした。

1人の認知症患者に対して、8時間の交代制で3人のタイ人女性が担当していて、24時間体制を実現していました。1人当たり2万円/月ほどで、3人で6万円/月。

ドイツやスイスの年金の平均額が約24万円なので、その他の食事代や部屋代などを含めても、年金の半分ほどで事足りる計算でした。食事の手伝いや散歩の同行などをしていましたが、言葉が通じなくても全く不便な様子はなく、見学に来ていた家族も安心していました。

夜は同じ部屋で眠り、例えば認知症患者の方が夜中にトイレに行ったりしても、すぐに綺麗に洗って片付けていました。これが、本当の介護だと私は感じました。

これを日本国内で実現することは不可能です。

2人に満たない現役世代が高齢者1人を支える計算ですから、人手だけでなく、財政的にも全く余裕はありません。海外の施設に送ると、「現代版の姨捨山」などと批判する人もいますが、日本国内のサービスレベルと比較して、「どちらが姨捨山なのか」と言いたくなります。



10年前の調査結果を、今頃記事にしてどうするんだという批判はさておいて、私が20年前に発想し、12年前に着手し、試行錯誤しながら運営してきたPure/Thaiの基本的概念(高齢者対策)は、共通するものがありましたので取り上げました。

決定的な相違は、Pure/Thaiは介護施設や老人ホームの建設・運営が目標ではないと云う事です。健康寿命を全うするため、元気うちに Re Engineeringを始めましょうという事で、心身のリラクゼーション・リカバリー(回復)・等を目的とした施設・運営を目標としていることです。Rejuvenation(回春)まで達成できれば、♥ですね。

長期滞在の結果、要介護になったら、上記サービスが必要になるでしょう。その為にも、『七人の侍プロジェクト』でガンガン稼いで置きましょうと繋がります。



売ったら売れない

『ガンガン稼ぐには、ビシビシ売り捲くしなければならない』としたら、最初から尻込みする人も少なくないだろう。いくら「売れ！売れ！売って来い！」と尻を叩かれても、簡単に売れるものではない。売れないセールスマンは皆、どうしたら売れるのか？どうして売れないのか？疑問と悩みに苛まれている。そこで、

こうしたら売れる。こうやって売れた。などと云うセールスのノウハウ集や体験談などは参考にはなっても、必ずしも自分に(誰にでも)できる事ばかりではない。「だったら、できる事から始めてみよう」と思い、行動を起こす人がいたら、その人は必ずTopセールスマンになれる、見上げた人だと感心します。が、現実にはそんな人は、千人に一人万人に一人しか居ないでしょう。更に突込みを入れれば、あなたが、その千人に一人、万人に一人のTopセールスマンになれる可能性を秘めていると云う事でもあります。



以前にも本誌(何号だったか忘れましたが)に記載したかと思いますが、免許皆伝の話です。剣豪と謳われた宮本武蔵の五輪の書は、別称、剣術の極意をしたための免許皆伝の書と云われていますが、武蔵自身の言葉としても「一道は百芸に通ず」とも遺されています。

百戦錬磨で鍛え上げ、ひたすらに人生を歩んで来られた(一道を極めて来られた)読者諸兄なら「ん！」と、得心されるでしょう。生半可な者が五輪の書を読んだ処で、免許皆伝の書を受け取った処で、どうして剣術の極意を悟れるのでしょうか？ 振り返りにあって、むざむざ切り殺されるのが落ちでしょう。「一芸は身を助け一道に通ずる」とも云われます。

営業の話に戻して、営業マンはモノやサービスを売るのが仕事だと思っているから向き・不向きがあるし、売れている内は良いけれど、売れなくなって来るとストレスは溜まるし、ジレンマ・ジレンマに陥ったりします。こちらが幾ら売りたいくても、お客さんが買いたいと思わなければ売れなくて当然！こんな単純な事が分からないで売っているから、売れなくなってしまうのです。売るのはではなく、買っていただくのです。

プロセールスマンの口上をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=AGrrbHayUew> 寅次郎、えんぴつを売る

10人の見込み客が居たとして、10人に買って貰える事なんて滅多にあるわけ無いでしょう。3人に買って貰えれば、3割バッターで一軍入りです。2人なら二軍・1人ならファーム入りです。何割バッターであっても、何人の見込み客にアプローチしたかによって、結果に差が出て来るとでしょう。ファーム入りの営業マンでも、コツコツアプローチを重ね、1ヶ月に100人の見込み客に会えば、10個の売上が見込めます。幾ら売りたいくても、10人中9人は買ってもらえない販売能力・スキル(経験・知識・技術・対応)しかないのですから、無価値なプライドなどかなぐり捨てて、謙虚に失敗経験・知識不足を反省しつつ補充し、技術・対応(マナー・話法)を勉強してみましょう。(これぞ、剣豪になるための修行だと理解されるでしょう)



Pure/Thai マッサージ店は閉店しましたが、10年余りの営業期間に数万人の利用客がありました。大した宣伝もしなかったし、立地条件も、観光客や流動客が多く通る場所でもありませんでしたが、来店客の過半数が地元のタイ人で、常連の外国人・その紹介客やリピーターで運営して来ました。

地道にコツコツ頑張りさえすれば(1ヶ月に10個しか売れなくても1年で120個...) 1回のアプローチで買って貰えなかった見込み客に再アプローチしたら、今回は買って貰えたという事も起こるでしょうし、紹介客やリピーターも出てくるはずですよ。

そこで、いよいよ免許皆伝です。売ろう売ろうと思っても、相手を買いたいと思われなければ売れないと云う事です。見込み客が欲しいと思っているものを、提供するのが営業マンの仕事だと得心できれば『我慢できないほど欲しいもの』が何であるか？ **アイデア!** (かなり古いCMキャッチフレーズ) アイデアであるし、愛であるし、こちらの商品かも知れない...。口八丁・手八丁にペラペラ喋り過ぎずに、じっくりと相手の話を聞く耳を持てば、アイデアは浮かんで来るし、愛も芽生えて来るし、こちらの商品にも関心が向いて来る。

幾ら健康で元気でいても、寄る年並みの体力の衰えは如何ともし難いし、生活習慣病の症状が顕著に現れているという人も少なくない。今、体力・気力が充実していて、健康に何の問題がないと思っても、アンバランスな食生活、無理な生活習慣を蓄積していて、ある日突然体調を崩すという人も少なくない。(経験知からして、年齢的節目があるような気もする)



女性なら、初潮から閉経までの出産可能期間が年齢的節目だし、男性なら勃起から不能までの期間が節目のような気がする。少子化が問題視されているが、具体的には、14・5歳から、50代までに子づくり・子育てを終わらせなければならない。子育てには20年掛るから、20代で結婚し、30代までに子づくりを終わらせられるような、経済的支援が制度化されるのが最大の少子化対策だが、20年ビジョンも描けない政府には期待できない。自力で遣るしかない。

<https://www.youtube.com/watch?v=t4REBzhJsg> 少子化問題、真の処方箋



宮本武蔵の書画

